

普及活動情勢報告（平成１９年５月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

心新たに経営記帳スタート！ - J A土佐あき安芸市青色申告会 -



新しく設置された東支部。会員数が増えた分、指導者数も増やして対応。

J A土佐あき安芸市青色申告会の新年度の活動がスタートした。今年も新会員が３０名増えて計１３４名（うち認定農業者１１９名）になり、３支部制を４支部制に増やして活動することになった。早速４月２３日から４日間、各支部ごとに記帳１～２年目の人を対象とした第１回目の基礎講習を行った。また、４月２７日には総会が開催され、農業振興センターからは今年度の計画として、希望者への経営分析・診断と、経営改善支援に取り組んで行くことを発表した。

今年は新たなパソコン簿記システムを導入し、記帳作業の簡易化が図られる予定だが、その分経営管理が厳格にならないよう、当センター主導で経営改善にステップアップさせていきたい。

地元産家畜ふん堆肥のサンプル展示による PR



地元産家畜ふん堆肥のサンプル展示

安芸農業振興センターでは家畜ふん尿や作物残さなどの堆肥を、土づくり資材としての有効活用に取り組むために、畜産農家と耕種農家との連携の強化を農業団体等と連携して進めている。

耕種農家への堆肥利用に向けたPR活動として、サンプル展示を４月最終から５月はじめまで、９箇所の園芸集出荷場でおこなった。畜産農家に、園芸農家より問い合わせもきており、昔よりも堆肥の品質が向上していることが再認識され、利用推進上の効果となり、堆肥流通の安定につながる啓発となった。今後は、園芸研究会の発表会に畜産農家が出向き、直接耕種農家へ、PRするように働きかける。

芸西エコ農業研究会発足



エコ農業研究会の検討会

４月に環境保全型農業と地域の生態系保全を一体的に取り組むことを目的とした「芸西エコ農業研究会」が、芸西村の施設園芸農家、J A、高知大学農学部をメンバーとして立ち上がった。まずは、土着天敵に注目しており、これを活用していくことが当面の課題である。

安芸農業振興センター農業改良普及課でも、この課題を推進しており、活動計画の立案や実際の利用方法についてこの研究会と協働して取り組んでいく。

ブルースター立枯れ症対策会の開催



現地での発生状況を調査

近年 ブルースターの生産現場で、立枯れ症発生株が増加している。

ブルースターは、安定的な生産量の確保が望まれる芸西村の主要花きであり、来作に向けての対策会を早急に開催する必要がある。そのため、ＪＡ土佐あき花き部会芸西支部ブルースター部会は、５月８日（火）に防除対策会を開催した。

５月上旬現在の発生状況をふまえて、定植前の土壌消毒方法についての研修や情報交換を行い、来作に向けての対策について部会員で意識統一を行った。参加した生産者からは、還元消毒法など各種土壌消毒方法について、熱心に質問が寄せられた。

安芸ブロックナス部会の開催



「みんな聞きゆう」

５月９日、安芸ブロックナス部会が総勢５０名の参加で行われた。ブロック会では生産者の所得向上や安定生産を図るため年２回、講演会等を実施し、生産者個々の生産性の向上を働きかけている。今回は、「今どきのナス経営」「ナスの仕立て、誘引方法が生育・収量に及ぼす影響」「土着天敵の活用方法」について学習。いずれも青色申告会や現地調査で得られた実際の数字を基に講演を実施。農家の栽培や経営に直結する内容であるため、参加者等からは「そうながや」「ほう」といった声も聞かれ「すごくためになった」という意見が多かった。生産現場の意見を反映しながら継続的に部会活動への働きかけをしていく。

農産加工で地産地消の推進



麦と米の味噌「いしんみそ」

田野町加工女性グループ「グリーンたの」は、「安全安心な食品を地産地消で消費者に提供したい」との思いを実現するため、農産加工品の商品化と、原料である麦、大豆等の試験栽培の活動をおこなっており、支援してきた。その結果、開発できた「麦と米の味噌」は昨年秋から田野の特産品販売所「田野駅屋」で販売しているが、さらに今月からは、田野町給食センターで食材としても使われることになり地産地消活動につながってきた。今後は、いままで試作した１４種の加工品を商品として店頭に並べられるように、また、給食にも活用されるように、包装や保存等の研究について、引き続き支援していく。